

1. 県内初の「新たな学び舎」の設立に向けて



岡谷市立川岸小学校(令和5年4月)

全国の自治体同様、岡谷市でも人口減少と少子化が深刻な問題になる中、老朽化した学校施設の長寿命化と施設規模の適正化、そして少子化がもたらす子どもたちの学びや活動への影響に適切に対応した教育環境の整備が課題となっています。

この喫緊の課題を逆にチャンスと捉え、未来へつながる新たな学び舎の創出に向け、令和5年2月に「川岸学園構想」を策定しました。

現在、築40年余りが経過した川岸小学校の大規模改修工事に併せ、隣接する岡谷西部中学校の校舎をつなぎ、市内初の施設一体型の義務教育学校への移行を目指すとともに、校地内に公立の幼保連携型認定こ

園^{※1}を併設し、幼児期から学齢期までを切れ目なくつなぐ「新たな学び舎」を創出するという構想になります。県内でも初となる取組を進めるため、令和5年4月1日より教育委員会内に「川岸学園設立準備室」を新設し、この学園構想の具現化に向け、スタートすることになりました！

「川岸学園構想」が掲げる 4つの基本方針

(1) 未来へつなぐ魅力とやさしさある学校施設の整備

次の時代のための魅力ある学校づくりとバリアフリー化等による人にやさしい校舎づくりの推進

(2) 学校間をつなぐ小中一貫教育^{※2}(義務教育学校)^{※3}

川岸小学校・岡谷西部中学校の連携を強化し、一貫したカリキュラムマネジメント^{※4}のもと教育を実践する、市内初の義務教育学校への移行

(3) 幼児期からのつながりある学び舎の創出

幼児期から学齢期への円滑な接続に向けた幼保小中間連携が容易な異年齢交流の拠点づくりの推進

(4) 地域に支えられ、地域とつながる岡谷版コミュニティ・スクールの導入

地域に支えられ、開かれた学校づくりを更に推進するための新たな岡谷版コミュニティ・スクール^{※5}への移行検討

川岸学園構想

未来へつなぐ魅力
とやさしさある学校
施設の整備

幼児期からの
つながりある
学び舎の創出

学校間をつなぐ
小中一貫教育(義務教
育学校)への移行

地域に支えられ、地域
とつながる新コミュニ
ティ・スクールの導入

4つの基本方針に沿って、取り組みます!!

<令和5年度の取組について>

○義務教育学校先進地への視察の実施 *裏面に5月に視察した内容を掲載しています!!

○幼保・小中をつなぐ新たな環境に向け、ソフト・ハード両面の検討

○川岸学園構想の具現化に向けた「基本計画」の策定

取組み状況は、当NEWSで随時お知らせしていきます!

川岸学園構想を
もっと詳しく



※1 幼保連携型認定子ども園…保育園と幼稚園の2つの園の機能を併せ持つ施設。同じ年齢の子どもたちは、幼保でクラスが分かれるのではなく、同一の指導方針のもと同じクラスで生活するが、預かり時間(教育時間)によって過ごす時間(退園時間)が異なる。

※2 小中一貫教育…小中学校段階の教員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育をめざす教育。小中一貫教育を実施する学校種として「義務教育学校」、「小中一貫型小学校・中学校」がある。

※3 義務教育学校…一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、一貫した教育方針のもと、学校目標を設定し、9年間にわたる教育課程を編成・実施する学校(5-4制、4-3-2制など、柔軟な設定が可能)

※4 カリキュラムマネジメント…児童生徒や地域の実態を踏まえた教育課程(カリキュラム)の管理・推進

※5 岡谷版コミュニティ・スクール…地域に開かれた学校づくりに向け、各校の特色あるボランティア活動等参画住民等と学校とが組織するもの。市内全校に設置。

準備室NEWS

2. 義務教育学校導入校（先進地）の状況について

5月下旬に横浜市にある義務教育学校「霧が丘学園」及び「緑園学園」の2校を視察しました。各校の特色や強み、現状の課題などを説明いただき、「新しい義務教育学校」の設立に向け、具体的なイメージが湧いて、大変に学びのある視察となりました。



横浜市立義務教育学校 霧が丘学園

【施設隣接型】

（平成 28 年 4 月開校）

小学部：452 名 中学部 264 名（令和 5 年 4 月 1 日）

学びの連続性を意識し

円滑に中学部へ進級できる教育活動

- 特色ある取り組み -

■ 9年間のつながりある学び

① 1～4年生『基礎・基本の習得』、5～6年生『小中接続期』、7～9年生『学びの発展期』と位置づけ、**9年間 のつながりを意識した授業づくりを実施。**

② 小学部と中学部間の**教員の乗り入れ授業**を実施。
（例）国語、数学… 小学部の先生が中学部で授業実施
図工・美術、音楽… 中学部の先生が小学部で授業実施

■ 中1ギャップ（※）の緩和に向けた主な取組

- ① **6年生から8年生による音楽会**の開催。
- ② **中学部生徒会役員選挙への6年生の参加。**
- ③ **6年生から部活動へ入部**（体験入部 11 月、本入部 12 月）。



横浜市立義務教育学校 緑園学園

【施設一体型】

（令和 4 年 4 月開校）

小学部：815 名 中学部 263 名（令和 5 年 4 月 1 日）

施設一体型のメリットを最大限に

活かした異年齢交流を実施

- 特色ある取り組み -

■ 異年齢交流の実施

- ① メインランドとサブランドがあり、**体育祭（中学部）と運動会（小学部）の合同練習を実施。**
- ② 1,000 人収容できるメインアリーナで、**1年生から9年生が合同で入学式や文化祭等を実施。**

■ **グローバル社会で活躍する基礎を養う独自教科を実施。** 中学部に「表現・未来デザイン科」を創設し、ダンスやプログラミング、舞踊等 11 コースを揃え、生徒が表現方法を学び、グローバル社会で活躍する基礎を養う。

■ 中1ギャップの緩和に向けた取組

- ① **6年生と7年生の教室を同フロアに配置し、中1ギャップの解消を図る。**
- ② **6年生は1月以降に部活動の体験入部へ。**

※中学校に進学した生徒が環境変化になじめず、不適応や不登校に陥ってしまうこと

視察の感想と今後に向けて

「施設隣接型」と「施設一体型」の二つの義務教育学校を視察し、教職員のカリキュラム編成の取り組み方法や内容や特色など施設形態の違いによるメリットや抱えている課題などを聞くことができたのは大きな収穫となりました。

また、新校舎を視察し、これからの新しい教育に対応した施設・設備等として、憩いの場所となる交流広場や多目的ホール、メディアセンター（図書館）などを見ることができ、今後の施設整備の検討に大いに参考になりました。